

まちづくり 昭島北

第81号

発行責任者:宮田次朗 2024.9.21

～防災隣組・結成10周年「互近助の心」～

「防災講演会」を開催しました

8月25日(日)AM10時から、昭島市民会館・大ホールにて、防災システム研究所所長／防災・危機管理アドバイザーの山村武彦氏を講師に防災隣組結成10周年「互近助の心」と題して、講演会を実施しました。

白井市長、早川副市長、山下教育長等多くの行政・防災関係者にも参加いただきました。

【講演内容】

- ① 山村氏が防災を志したわけ／災害は防げずとも、準備すれば災害を少なくできる
- ② 世界中の災害現地で得た「防災の鉄則」(災害は時と所を選ばず、災害はそれぞれ違う顔をしている)
- ③ 今年発生 of 台湾東部沖地震、能登半島地震から大規模地震に学ぶ
- ④ 2016年熊本地震の教訓／震度6弱以上の地震が3日間に7回発生、絶対安全はない
- ⑤ 家具の配置法、災害予防訓練(スマート防災訓練)のススメ
- ⑥ 首都直下地震／震度6強の激しい揺れ！そのとき、どうする、どうなる！／我が家の安全ゾーン(ガラス・転倒落下物の少ない、閉じ込められない場所)／命捨てるな！モノ捨てる (年に2回は防災大掃除+家族防災会議)
- ⑦ 「自助」+「互近助」+「防災隣組」でつくる災害に強いまち
- ⑧ 防災隣組 10 か条／「互近助」の心(裏面参照)

1時間以上にわたり多くの防災・危機管理のアドバイスを頂きました。

講演後に、質問タイムを設け、参加者から質問に対して答えていただきました。



9月28日(土)9時からの自治会の「防災訓練」に参加しましょう

訓練内容は、各自治会からお知らせをご覧ください。

ご家族やご近所の皆様と一緒にご参加ください。



●10月13日(日)10時から、「昭島市総合防災訓練」が瑞雲中学校校庭で実施されます。各種体験が出来るようです。是非予定しておいてください。

●まちづくり昭島北の防災の取組みを東京消防庁主催の「第21回地域の防火防災功労賞」に応募していました。先日「優秀賞」を受賞との連絡がありました。

<まちづくり昭島北・構成団体> つつじが丘東自治会(1～5号棟)、つつじが丘西自治会(6～11号棟)、つつじが丘北自治会(12～25号棟)、プレイシア自治会、ポレスター昭島自治会、昭島つつじが丘ハイツ住宅管理組合(1～5号棟)、昭島つつじが丘ハイツ北住宅管理組合(12～25号棟)、プレイシア管理組合法人、昭島つつじが丘ショッピングプラザ店舗会

～裏面もご覧ください → 防災隣組10か条(互近助) 「互近助の心」～

防災隣組10か条(互近助)

- 1、ほどよい距離感で(べたべたせず、プライバシーに深入りせず)
- 2、困ったときはお互い様
- 3、あいさつは、先手必勝(気付いたほうが先に言う)
- 4、気持ちよい前向き挨拶(嫌な雨→良いお湿り)
- 5、地域行事に積極参加
- 6、欲張らないで、身近なことからコツコツと
- 7、回覧板は、顔見て手渡しで
- 8、いざというとき、ためらわないで声かけて
- 9、向こう三軒両隣で安否確認チーム
- 10、無理なく、楽しく、自分のために、住み続けたいまちづくり



防災システム研究所

互近助(ごきんじょ)

ひとは一人では生きていけません。それぞれの存在によって社会が成り立っています。

だからこそ、自分でできることは自分で対応が基本です。しかし、身体が不自由であれば自分でできることに限りがあります。高齢者、障害者、病人も、そうなりたくなつた人はひとりもいません、可能な限り自分のことは自分でした上で、対応が困難な時は隣人や行政に助けを求めていいのです。

誰でも病気になる時があります。誰でもいつかは歳をとります。辛い時は愚痴をこぼし、悲しい時は泣いていいのです。地域でも職場でも隣人同士どこかで迷惑をかけ合いながら生きていくのです。それがお互い様です。

プライバシーには深入りせず、ほどよい距離感で、隣人が困っているな、変だなと思ったら近くの人がためらわずに声をかけ互いに近くで助け合う。誰だっていつかは助けられる人になります。元気なうちは助ける人になるのです。それが互近助です。みんなが互近助づきあいを実践していけば、これからもずっと住み続けたいまちになるのです。

山村武彦